



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年10月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社角川グループホールディングス
 コード番号 9477 URL <http://www.kadokawa-hd.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 辰男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役統括マネージャー (氏名) 高山 康明

TEL 03-3238-8561

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	67,906	1.5	3,453	38.8	3,431	18.2	2,878	—
23年3月期第2四半期	66,875	5.4	2,487	7.4	2,903	14.7	△2,099	—

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 2,538百万円 (—%) 23年3月期第2四半期 △1,597百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	112.48	98.87
23年3月期第2四半期	△83.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	123,635	76,630	61.3
23年3月期	121,951	73,150	59.4

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 75,820百万円 23年3月期 72,479百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	35.00	35.00
24年3月期	—	0.00	—	35.00	35.00
24年3月期(予想)	—	—	—	35.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	142,000	1.4	8,500	9.1	8,800	2.7	6,500	2.1	258.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	27,260,800 株	23年3月期	27,260,800 株
24年3月期2Q	1,377,438 株	23年3月期	2,107,214 株
24年3月期2Q	25,592,305 株	23年3月期2Q	25,226,739 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中でありませぬ。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(7) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復旧とともに企業の生産活動や個人消費が回復の兆しを見せる一方で、原子力発電所の事故や長期化する円高の影響もあり、依然として不透明な状況が続いております。

こうした環境下、当社グループは、主に出版事業から生み出される高付加価値コンテンツを多メディア展開することにより、出版事業の成長はもとより、映像関連事業、ネット・デジタル関連事業、海外関連事業の拡充を図っております。今後、飛躍的な成長が期待される電子書籍においても、「BOOK☆WALKER」を中心に、コンテンツの拡販と独自のプラットフォーム構築に向け、着実に事業拡大を推進しております。さらに抜本的な構造改革を断行し収益力の向上に取り組んでおります。

書籍関連においては、文庫、ライトノベル及びコミックスの各シリーズ作品の販売が好調に推移し、また、文芸書、実用書でも市場ニーズにマッチした作品を継続的に生み出しております。

雑誌・広告関連においては、東日本大震災の影響が大きく、販売、広告収入ともに厳しい状況が続いております。

映像関連においては、アニメのBlu-ray作品を中心にパッケージビジネスは順調に推移いたしましたが、シネコン事業において大規模作品が少なかった影響もあり伸び悩みをみせております。

ネット・デジタル関連においては、ゲームソフト、eコマース事業が引き続き順調に推移し、電子書籍については、独自のデジタルコンテンツ配信プラットフォーム「BOOK☆WALKER」で夏の大キャンペーンを実施し、発売直後の人気タイトルや新レーベルの投入、電子コミック雑誌の創刊などを連続で行い、大幅にユーザー数とコンテンツ販売数を伸ばしております。

海外関連においては、中国にて日本作品を原作に現地でコミック化した作品などを連載するコミック誌「天漫」を創刊いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高679億6百万円（前年同期比1.5%増）、営業利益34億53百万円（同38.8%増）、経常利益34億31百万円（同18.2%増）、四半期純利益28億78百万円（前年同期は四半期純損失20億99百万円）となりました。

各ジャンルにおける売上貢献作品は次のとおりであります。

(単行本)

「ジェノサイド」高野和明、「県庁おもてなし課」有川浩、「ザ・パワー」ロンダ・バーン（角川書店）

「9割がバイトでも最高のスタッフに育つディズニーの教え方」福島文二郎（中経出版）

(新書)

「先送りできない日本 “第二の焼け跡”からの再出発」池上彰（角川書店）

(文庫)

「夜明けの街で」東野圭吾、「図書館戦争」有川浩、「テンペスト」池上永一（角川書店）

(ライトノベル)

「涼宮ハルヒの驚愕（前）（後）」谷川流（角川書店）

「俺の妹がこんなに可愛いわけがない」伏見つかさ、

「とある魔術の禁書目録」鎌池和馬（アスキー・メディアワークス）

「バカとテストと召喚獣」井上堅二（エンターブレイン）

「いつか天魔の黒ウサギ」鏡貴也（富士見書房）

(コミックス)

「デッドマン・ワンダーランド」片岡人生 近藤一馬、

「魔法少女リリカルなのは」藤真拓哉 都築真紀（角川書店）

「学園黙示録H.O.T.D.」佐藤大輔（富士見書房）

「テルマエ・ロマエ」ヤマザキマリ（エンターブレイン）

(DVD、Blu-ray)

「これはゾンビですか?」、「GOSICK-ゴシック」、

「らき☆すたBlu-ray BOX」、「ストライクウィッチーズBlu-ray BOX」（角川書店）

(映画)

「日輪の遺産」、「漫オギャング」、「はやぶさ HAYABUSA」（配給：角川書店）

(ゲーム)

PSP「Steins ; Gate」（角川書店）

PSP「デュラララ!! 3way standoff」（アスキー・メディアワークス）

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産は、前期末に比べて16億84百万円増加し、1,236億35百万円となりました。有価証券、投資有価証券及び有形固定資産が取得により増加した一方、これらの取得、法人税等の納付、さらに配当金の支払等により、現金及び預金が減少しました。

負債は、前期末に比べて17億94百万円減少し、470億5百万円となりました。通常の営業活動に伴い支払手形及び買掛金が、納税により未払法人税等が、それぞれ減少しました。

純資産は、前期末に比べて34億79百万円増加し、766億30百万円となりました。四半期純利益の計上により利益剰余金が増加した一方、第三者割当による処分により自己株式が減少しましたが、いずれも株主資本の増加要因となりました。

自己資本比率は、前期末に比べて1.9ポイント上がり、61.3%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、費用未支出項目である投資有価証券評価損が減少したものの、税金等調整前四半期純利益の計上、法人税等支払額の減少等により、14億70百万円の収入（前年同期は9億39百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産、有価証券及び投資有価証券の取得による支出等により、60億7百万円の支出（前年同期は13億94百万円の収入）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払による支出、自己株式の売却による収入等により、8億59百万円の収入（前年同期は10億96百万円の支出）となりました。

以上の結果、為替換算差額を含めて38億12百万円の支出となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は、221億95百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第3四半期以降におきましては、TVアニメ放送を増加し、ライトノベル、コミックスのメディアミックス作品を中心に書籍販売の拡大を図り、また、ゲームソフトの発売、大型劇場映画の公開等により業績を伸ばしてまいります。

通期の連結業績予想につきましては、平成23年4月28日に公表した業績予想からの修正はありません。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,174	21,463
受取手形及び売掛金	32,852	32,069
有価証券	—	1,772
たな卸資産	12,473	13,496
繰延税金資産	3,884	4,109
その他	2,708	3,378
貸倒引当金	△151	△144
流動資産合計	77,942	76,145
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,227	8,448
工具、器具及び備品（純額）	1,308	1,513
土地	10,530	10,530
その他（純額）	1,814	651
有形固定資産合計	19,880	21,144
無形固定資産		
のれん	671	572
その他	1,796	1,937
無形固定資産合計	2,468	2,510
投資その他の資産		
投資有価証券	11,678	13,994
繰延税金資産	2,238	2,178
その他	8,073	7,934
貸倒引当金	△331	△272
投資その他の資産合計	21,659	23,835
固定資産合計	44,008	47,490
資産合計	121,951	123,635

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,202	15,858
短期借入金	573	557
未払法人税等	1,755	668
賞与引当金	1,356	1,364
返品調整引当金	3,526	3,436
その他	9,179	10,023
流動負債合計	33,593	31,908
固定負債		
新株予約権付社債	11,000	11,000
長期借入金	33	8
繰延税金負債	353	265
退職給付引当金	2,200	2,275
その他	1,619	1,548
固定負債合計	15,206	15,097
負債合計	48,800	47,005
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,330	26,330
資本剰余金	27,704	27,375
利益剰余金	27,907	29,898
自己株式	△6,014	△3,932
株主資本合計	75,928	79,671
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△686	△908
土地再評価差額金	△256	△256
為替換算調整勘定	△2,505	△2,685
その他の包括利益累計額合計	△3,449	△3,850
少数株主持分	671	809
純資産合計	73,150	76,630
負債純資産合計	121,951	123,635

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	66,875	67,906
売上原価	50,228	49,740
売上総利益	16,647	18,165
返品調整引当金戻入額	3,806	3,526
返品調整引当金繰入額	3,440	3,436
差引売上総利益	17,013	18,255
販売費及び一般管理費	14,525	14,801
営業利益	2,487	3,453
営業外収益		
受取利息	40	23
受取配当金	106	95
負ののれん償却額	44	40
持分法による投資利益	23	10
複合金融商品評価益	156	—
受取保険金	5	20
古紙売却益	78	76
その他	48	95
営業外収益合計	504	362
営業外費用		
支払利息	80	76
複合金融商品評価損	—	294
その他	8	14
営業外費用合計	88	384
経常利益	2,903	3,431
特別利益		
固定資産売却益	3	5
関係会社株式売却益	0	—
会員権売却益	1	—
退職給付制度改定益	—	19
特別利益合計	4	24
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	47	149
投資有価証券評価損	2,605	9
出資金評価損	—	8
会員権評価損	5	10
特別退職金	14	11
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	408	—
特別損失合計	3,080	189
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△172	3,266
法人税等	1,877	325
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△2,049	2,940
少数株主利益	49	62
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,099	2,878

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△2,049	2,940
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,273	△221
為替換算調整勘定	△801	△180
持分法適用会社に対する持分相当額	△19	△0
その他の包括利益合計	452	△402
四半期包括利益	△1,597	2,538
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,626	2,477
少数株主に係る四半期包括利益	28	61

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△172	3,266
減価償却費	942	936
のれん償却額	170	58
退職給付引当金の増減額(△は減少)	46	75
受取利息及び受取配当金	△146	△118
支払利息	80	76
持分法による投資損益(△は益)	△23	△10
投資有価証券評価損益(△は益)	2,605	9
売上債権の増減額(△は増加)	3,007	1,979
たな卸資産の増減額(△は増加)	△605	△1,021
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,529	△1,632
その他	△1,241	△834
小計	3,133	2,783
利息及び配当金の受取額	205	139
利息の支払額	△79	△76
法人税等の支払額	△2,320	△1,375
営業活動によるキャッシュ・フロー	939	1,470
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	2,264	△99
有価証券の取得による支出	—	△606
有形固定資産の取得による支出	△649	△1,771
無形固定資産の取得による支出	△277	△502
投資有価証券の取得による支出	△459	△3,137
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	8	—
保険積立金の解約による収入	409	120
その他	98	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,394	△6,007
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△267	△6
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	—	1,716
配当金の支払額	△756	△880
その他	△72	29
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,096	859
現金及び現金同等物に係る換算差額	△304	△134
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	932	△3,812
現金及び現金同等物の期首残高	21,747	26,007
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,680	22,195

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

当社グループは、出版物、映像等のコンテンツの開発、制作、仕入、販売及びその付帯業務を主な事業とする単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年5月26日開催の当社取締役会決議に基づき、同年6月13日付で株式会社ダウンゴを割当先とする自己株式処分を実施いたしました。この結果、前期末に比べて自己株式が2,082百万円、資本剰余金が329百万円、利益剰余金が36百万円それぞれ減少し、株主資本が1,716百万円増加しております。

(7) 重要な後発事象

株式取得による会社等の買収

当社は、平成23年10月12日開催の当社取締役会において、株式会社メディアファクトリーの発行済株式の100%を取得することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

① 株式取得の相手会社の名称

株式会社リクルート

② 買収する会社の名称、事業内容及び規模

ア. 名称 株式会社メディアファクトリー
イ. 事業内容 雑誌・書籍の出版事業、アニメ・映像・音楽事業、マーチャンダイジング事業
ウ. 規模 資本金100百万円

③ 株式取得の目的

同社の「クロスメディア展開」と、当社の「メディアミックス」「ワンソースマルチユース」を中心とする事業戦略は、軌を一にするもので、非常に親和性が高いといえます。一方、当社グループでは、グループ内でのコンテンツ交流による更なる価値の創造や、スケールメリットを活かしたシナジー効果を発揮しておりますが、同社を当社グループの中核事業会社として迎えることは、同社の独自性と強みを活かしながら、一層の成長と企業価値の向上につながり、当社の事業基盤の拡充と今後の成長に大きく資するものと考え株式取得を決定いたしました。

④ 株式取得の時期

平成23年11月15日（予定）

⑤ 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

ア. 取得する株式の数 3,150株
イ. 取得価額 8,000百万円
ウ. 取得後の持分比率 100%

⑥ 資金調達の方法

自己資金